

商店街をもっと見る。もっと知る。

# 京都商店街新聞

KYOTO SHOPPING DISTRICT PRESS

2024.11 Vol.13

発行：京都府商店街振興組合連合会  
〒600-8009 京都市下京区四条通室町東  
入面谷鉦町 78 (京都経済センター3階)  
TEL：075(342)0301 FAX：075(342)0302  
URL：https://syouren.or.jp

## CONTENTS

インタビュー：高野ウエスト商店街振興組合 / 商店街の取り組み / ドナルド・マクドナルド・ハウス京都 / 12月・1月の商店街イベント情報 / 店舗の大掃除と不用品処分 / 商店街コラボ創出事業 / and more...

次号予告 2025年1月末発行  
河原町グリーン商店街振興組合  
インタビュー



高野ウエスト商店街振興組合  
理事長 藤田洋司さん

## 住民同士をつなげる 地域のための商店街

高野エリアにおいてコミュニティの中心にある高野ウエスト商店街。今回は高野ウエスト商店街振興組合の藤田理事長にお話をお聞きました。

### 高野地域に根差した商店街

商店街の南側には元々鐘紡(現在のカネボウ)の京都工場があり、いまも赤レンガ造りの遺構が残っています。当時の工場周辺に住宅地が形成されると、商店も集まってきたことで、現在の商店街が誕生したとされています。1989年には商店街として組織化され、地域コミュニティの中心として35年に亘る歴史を紡いでいます。

長年コミュニティの中心として存在している商店街でもあることから、「住民同士のつながりを絶やさないような運営も、商店街には求められていると思います」と藤田理事長は話されます。

### 地域のつながりを絶やさない

来街者のほとんどが周辺地域に生活をしている方で、商店街には生活に密着した店舗が多く立ち並んでいるのが特徴。

来店層の多くは理事長をはじめ商店街店主の顔なじみの人でもあり、地域のための商店街として強く意識されているそうです。

地域との接点が高い商店街として、定期的に取り組んでいるのが、地域の方との交流も兼ねた月1回の清掃活動。清掃を行うことで街の巡回にも繋がり、治安維持の役割も果たしていると話されます。さらに「商店街の人」として顔が知られることで、周辺地域の方への安心と信頼にもなり、継続的に来店していただく動機にもなっています」と波及効果についても教えてくださいました。



月1回の清掃活動



あたたかな雰囲気にあふれた  
地域のための商店街でした

京都外国語大学の学生が取材しました!

### インタビューを終えて

地域との繋がりをベースに、地域の方の情報まで共有されていることが印象的でした。一例として、電器店を訪れたご高齢の方の体調の変化を、別の店舗の方や福祉団体の方などと世間話の一環として共有する。そうすることで広い範囲で気をつけたり安心あるサポートができるというものでした。この繋がりが生み出す温かさの連鎖こそ、この商店街の魅力



### 生活密着で衣食住をサポート



紡績会社の工場周辺に住宅が集まり、時を同じくして形成された商店街。衣食住をはじめ暮らしのあれこれをサポートする。

### 商店街DATA

高野ウエスト商店街振興組合  
京都市左京区高野西開町 55-2  
☎075-712-7612

- 創立：1989年(平成元年)
- 組合員数：20店舗



京都市立高野中学校と連携し開催した「オータムフェスタ」(抽選会イベントの様子)

学びながら楽しめる  
クイズコーナー



令和4年に行われた  
かくれんぼワードラリー

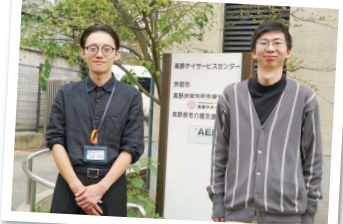


京都市立養正小学校で行われた  
認知症サポーター養成講座



約30年前に開催された  
活気ある商店街の  
夏まつり

京都市高野地域  
包括支援センターの  
早崎センター長(左)にも  
インタビューしました



## 安心・安全で 愛され続ける商店街に

### 高野ウエスト商店街振興組合

地域の方との繋がりを大事にしている高野ウエスト商店街。子どもや高齢者に優しい安心で安全な商店街を目指し、日々の商店街活動に取り組まれています。

### 子どもや高齢者に優しい 安心・安全な商店街

「子どもや高齢者に優しい安心・安全な商店街」をスローガンに掲げる高野ウエスト商店街。生活密着型の商店街として親しまれていますが、他の商店街と比較しても医院や調剤薬局などの医療・福祉サービス業の業種比率が高いのが特徴。この背景には、商店街周辺は住宅地が多く、高齢者の方も年々増加していることから推察できます。

医療や福祉といったサービスの性質上、単独で地域の方を見守ることは難しく、複数の地域団体と連携・情報共有することで広く地域を専門的にサポートできるネットワークを築いていますと、藤田理事長は話されます。このネットワーク組織「高野圏域認知症ネット」では、商店街も含め、複数の医療系の団体や組織で構成されており、日々の情報共有をはじめ、イベントなどの協力も行っています。

### 地域の医療福祉団体との連携事業

これまで商店街で継続的に行っている恒例の抽選

会イベント。昨年新たな試みとして、高野圏域認知症ネットを運営する京都市高野地域包括支援センターと連携し、子どもから大人まで楽しめるモルックのイベントを初開催しました。健康にも繋がるといわれるモルック競技ですが、参加された方に抽選券を配布するという手法を取り入れたことで、新しい層にもリーチできたほか、広く認知症予防の啓発にも繋げることができたそうです。参加者を含め多くの好評の声が寄せられており、恒例行事にしていきたいために地域の医療福祉団体とさらなる連携強化も行っていきたいと話されています。



モルックとは…  
モルックという木製棒を投げて、  
倒したピンの数を競う  
フィンランド発祥のスポーツ

老若男女が楽しめます

### お店のユニークな取り組みや工夫をご紹介します

## 店舗Pick Up! 商店街図鑑 高野ウエスト 商店街振興組合

### 商店街と緊密な連携協力を行う地域の支援施設 京都市高野地域包括支援センター

地域の高齢者のための総合相談窓口としてサポート運営される地域包括支援センター。現在は相談内容が多様化・複雑化しており、医療と福祉だけのネットワークでは限界になっているそうです。そこで、高野地域の包括支援センターでは、「高野圏域認知症ネット」と呼ばれる独自のネットワーク組織を運営し、メンバーの団体や企業などでさまざまな情報を共有し幅広い地域支援の活動を行っています。

高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためにも、地域に根付いたコミュニティの存在は大切。とくに古くから地域の方と「馴染みのある関係」を築いている商店街は重要だそうで、商店街イベントにも参加することで地域住民の方との直接交流、認知症予防の普及啓発活動にもつながっているそうです。包括支援センターのことをもっと身近に感じてもらうように、商店街イベントにも積極的に参加し、顔の見える関係を築いていきたいと話されています。

☎075-724-0397  
受付 月～金  
9:00～17:00

### 徹底した地域密着対応で量販店との棲み分けを実現

### (株)永田電器 タカノ店

多くの商店街店舗で課題にも挙がる大型量販店との競合問題。永田電器の場合、量販店が商店街に進出するにあたり、対応策としてそれまでの営業スタイルから、よりお客様視点に立った接客方法に変更されたそうです。

例えば小型家電でも修理を依頼する際、たいていは量販店に持ち込むことが多いかと思いますが、永田電器ではどんな家電でも引き取りに行く対応をするなど、お客様ファーストの視点で徹底的なサービスを追求しています。その結果、価格ではなくサービス内容に商品価値を見出すお客様が一定数必ずいるということが分かり、大型量販店との棲み分けが実現できたそうです。またお客様とのコミュニケーションが深くなることで信頼向上にもなる効果があるほか、特に地域高齢者への見回りも兼ねていることにもなるので、安心ある街づくりにも繋がっているそうです。

新規客やお得意様へのコミュニケーションツールとなっている案内チラシや独自の新聞

☎075-722-1225  
営業 9:30～19:00  
定休 木曜、祝日

取材・文＝京都外国語大学 国際貢献学部グローバル観光学  
廣田歩夢(3年次)、山下空真(3年次)